



- 駐車場
- ↓ 0:03
- 鉄塔130取付口
- ↓ 0:11
- 鉄塔130取付口
- ↓ 0:18
- ダム口分岐
- ↓ 0:31
- 尾根分岐
- ↓ 0:10
- 犬鳴山(584m)
- ↓ 0:03
- 藤七谷分岐
- ↓ 0:08
- 谷下降口
- ↓ 0:44
- 尾根コース分岐
- ↓ 0:06
- 砂防ダム
- ↓ 0:11
- 犬鳴口
- ↓ 0:13
- 旧道ゲート
- ↓ 0:18
- 駐車場



鉄塔130への取付き点。駐車場の先のフジ棚の前の斜面で、クサリ付の鉄柵を頼りに上り右へ折れる。



擬木階段が鉄塔130まで続くので、緩々と上る。



展望の良い斜面に出る。これから向かう犬鳴山の山頂が見える。



振り返るとダム湖が枝越しに見える。



緩々と上り詰めると、シカ避けネットに囲まれた銀色に輝く鉄塔130である。反対側の尾根にルートがある。



右がヒノキの植林、左が自然林の中央部に踏み跡があるので忠実に辿る。赤テープも所々にある。



ダム口分岐で向かうルートを見る。ダム口へは北側斜面に北東方向に踏み跡があるが、目印はない。



尾根分岐に到着。南に尾根を下ると藤七谷に合流し犬鳴口に至る。⑨の標識がある。



頂上手前の急斜面に張られたトラロープを上り詰めると山頂。



広くもなく狭くもない標高584mの犬鳴山山頂に到着。



別名「熊ヶ城」とも云い戦国時代の宗像氏の端城。温度計は12℃であった。



樹間にダム管理棟や脇田温泉が霞の中に望まれる。



縦走路が西山(鮎坂山)へ続く北方向の山並み。



北側に降り口があり、傍に西山(鮎坂山)の標識が枝に下がっている。



藤七谷分岐。尾根の左斜面を下る。



谷の突き上げ部で直角に折れ、滑りやすい泥斜面を下る。ここは、フィクスが欲しい所。



藤七谷の様子。落ち葉が積もった涸れ谷で明るい。



最上部にある炭焼き窯址。沢のあちこちにあり往時は、煙が谷を覆っていたことだろう。



沢の中間部付近から下流を望む。万年青やアケボノソウが多く見られる。



尾根コース分岐に到着。東側の沢沿いに上り詰めると⑩の尾根分岐に至る。付近に②の標識がある。



沢の対岸に踏み跡が付いている。



砂防ダムを50m程遡行すると、落差20m程の「大鳴の滝」が見られる。



上流の砂防ダムから下流の砂防ダムを望む。



下流ダムの下を抜け、左岸沿いに下ると旧道のアスファルトが見えてくる。



大鳴口の登山口に到着。



通行止めの旧道を東へ下る。



旧道へのゲートの脇を抜けて、県道21号を北東方向へ下る。



交通量が多いので注意を要する。前方に鉄塔130が聳えている。



ダム入口を左折すると駐車場へ戻りつく。



大鳴山

帰路ダム湖を周回し、犬鳴大橋から見た犬鳴山。